

みず
水

ぐるま
車



(財)新松戸郷土資料館館報

第12号



財団法人 新松戸郷土資料館

〒270-0034 千葉県松戸市新松戸3-27

新松戸市民センター (三階)

電話 047-344-1909

発行年月日 平成11年3月末日

もくじ 彫物・目潰しの鴨(流山・東福寺)…表紙

下谷の稲作

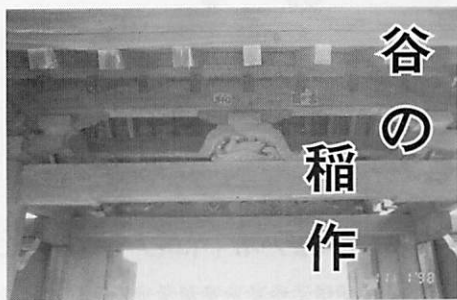
◇下谷の稲作…………… 2

◇江戸川左岸側の水田地帯に
作られていた品種一覧表…………… 3

◇日誌抄・ご案内・編集後記…………… 4

下谷の

稲作



戦前の下谷は、糯米中心の稲作でした。糯種は水害に強いことと、品質のよいものが収穫されたためでした。品種は中生種の埼玉糯と恵比寿糯でした。三次郎種はとくに稲丈が高く一メートル五〇センチほどにもなり稲丈の一番高い品種でした。また品質は全国でも一、二位を競うほどで、全国品評会で金賞をうけたこともありました。

しかし、欠点は分蘗が四、五本しかないことと、二化螟虫に弱いため田植えをする時は一株あたり十二、三本ずつ植えて収穫時には一株十本あればよい方とされてきました。苗代もほかの品種の二倍を必要としました。収穫高も一反あたり五俵あれ

ば上等でした。しかし手間がかかっても味がよく、しかも藁の品質も優れていました。藁が長く柔らかく強いので、加工品にはもっともよいものでした。米よりも藁が欲しいため三次郎糯を作るという人もいました。埼玉糯種は、田植え後水害に遭い水腐れになっても一株当たり一、二本残っていれば分蘗が旺盛なため、収穫高が減るといふこともなく安心な品種で、また水はけの悪い水田でも作つてができました。刈取り時期も三次郎糯と重ならず、たとえ水害にあっても穂発芽が遅いためにこの水害の常習地帯の下谷には適した品種でした。ただ芒が長い品種で機械のない時代だったために、芒落としては人手がかかり大変な作業でした。

十月頃になると下谷には渡り鳥が



「とます(斗桶)」 谷口未佳

多く飛来してきます。丁度水の多い時期のため、この稲穂だけが水面上に出ているので鳥達の格好の餌となり、一夜にして稲穂をたべられてしまったという家がかかりました。その害鳥から稲を守るために鱸ヶ崎にある東福寺には、左甚五郎作といわれる「目潰しの鴨」の彫物が掲げられています。鴨の見せしめのための彫物が高台の寺からいまでも下谷の一带を見守ってくれています。

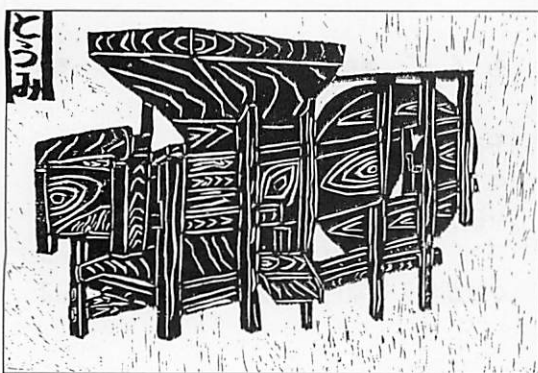
刈取った稲は、田舟で水路を通り運搬することが恒例でした。運搬された稲はのろし(おだかけ)をしてその後、乾燥した稲二十束を一束(大束)にします。二反歩ほどの量を稲ぼつちにし、宅地内の高い場所に保管し、雨や刈取りのない時期に脱穀します。脱穀仕事の大部分は夜業仕事でした。脱穀した稲は殻入れ、または籾立ての中に保管をして天気の良い日に籾の籾干しをします。保管場所がなくなると籾摺りをし保管するか出荷をしました。それら全体の仕事を秋までといい、十二月の半ばまでの作業でした。

秋までが終わると、来年度の藁仕事春の農作業の始まる二月まで続きます。この藁仕事も夜業仕事で休

みは一日と十五日位でした。俵は中俵、うわが俵、さん俵(二個)、中繩、かがり繩、細繩というように一俵分つくるには、二人仕事といわれ大変な作業でした。

下谷地区の農家の平均耕作面積は約一町六反で、一戸の米の平均収穫量は七、八十俵でした。一軒の家の食米は二十俵位で、売ることの出来る米の量は、五、六十俵でした。下谷のような稲作地帯を単作地帯と呼び年に一回の現金収入でした。

冬になり手が空くと、男達は土木作業の仕事など出稼ぎにいく家もありました。また、畑地のある家では



「とうみ(藁貫)」 石路大志

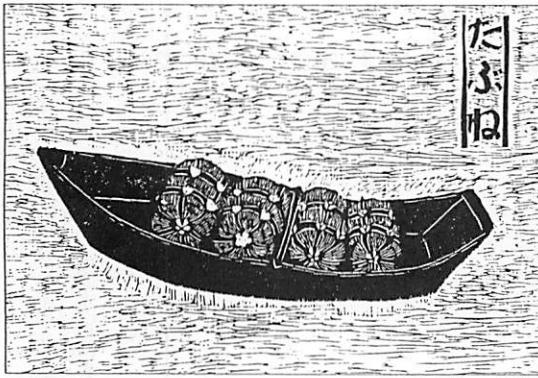
野菜づくりなどにも精を出し、いくらかでも現金収入を得られるように計りました。

昭和十六年頃になると、水はけの悪い土地といわれていた下谷も少しずつ水位が下がり始めました。その理由は、舟の難所といわれていた松戸の小山の下流にあった江戸川の岩盤を六尺ほど爆破したことによって、坂川の川床が下がりそれによって水田の水位も下がるようになったのでした。その岩盤の爆破は、当時松戸の相模台にあった工兵学校の工兵隊がしました。このことよっていままで下谷では出来なかった刈り干し（かっぱし）が少し出来るようになり、また水の中の稲刈りというようなことも少しずつ減り始めました。

米の品種も農林一号といういい品種が出来、どの家も多くこれを作付けするようになりました。農機具などもやっと出始め、作業も少しずつ楽になりました。農機具の動力は、国産の発動機の三馬力のもので七、八十キログラムもあり男二人がかりでも移動は大変なものでした。そのようなものでも、農機具は大農の家しか持つことが出来ず、一般の農家はまだ江戸時代からの農具を

使用していました。手軽なモーターが出てきて一般の家でも手に入るようになるのは、昭和十五、六年からです。田起しや代かきは牛や馬か人手でした。

農作業に付きものの虫は、四月頃の田起しの時期の朝靄のかかった日などに蚧の大群が出てくることがありました。これに襲われると髪の中に入り込んで血を吸うので痛くてまた痒くてどうにも我慢ができません



「たぶね (田舟)」 三浦青英

※農具のカットは、昭和六十一年に松戸市新松戸の新松戸南小学校五年生の子供達が、郷土資料館に展示されている農具を木版画に彫ったものです。

でした。牛や馬などは色が変わってしまふほど刺され、涙を流していたなどといわれています。そのような日は作業を止め、蚧の飛べなくなる風が出て来るのを待ちました。

日中になると牛蠅がでてきます。これも刺されるととても痛い虫でした。

江戸川左岸側の水田地帯に作られていた品種一覧表

| 年度 | 品種名 | | | 特性 |
|--------|------------|----|----|----------|
| | 馬橋早生 | 極生 | 中生 | |
| 大正、昭和 | 馬橋早生 | 極生 | 中生 | 収穫期 7月中旬 |
| | ホムラ | | | 8月下旬 |
| | 銀坊 | | | 9月中旬 |
| | 三次郎 (江戸川橋) | | | 8月下旬 |
| | 埼玉橋 | | | 9月下旬 |
| 昭和7、8年 | 恵比寿橋 | | | 9月下旬 |
| | 農林一号 | | | 8月下旬 |
| | 農林三号 | | | 9月上旬 |
| | 農林二号 | | | 9月下旬 |
| | 農林四号 | | | 9月下旬 |
| 昭和30年 | 農林二八号 | | | 9月下旬 |
| | ホオネンワセ | | | 9月上旬 |
| 昭和31年 | コシヒカリ | | | 9月中旬 |

た。田植えには、ちくり虫といって蛇の幼虫がいて、少しでも触れると足の先から頭の上まで痺れるほどの痛い虫が多くいました。夏になると、水の多い田では、蛭や害虫に襲われたりするので水田の作業は大変なものでした。

日誌抄

平成10年

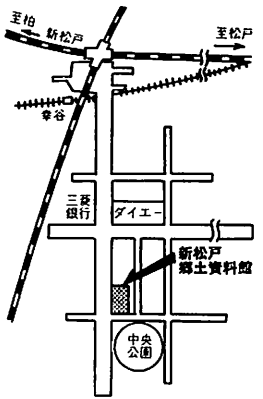
| | |
|---------|------------------------|
| 1・7 | 全体会議 |
| 1・14 | 「川の活動展」打合せ会議 |
| 2・21 | 展示物製作 |
| 2・22 | 新松戸北小学校三年生見学 |
| 2・23 | 新松戸南小学校三年生見学 |
| 2・28 | 横須賀小学校三年生見学 |
| 2・29・30 | 馬橋北小学校三年生見学 |
| 3・4 | 全体会議 |
| 3・21・23 | 松戸市河川愛護団体会議館長出席 |
| 3・7 | 新松戸南小学校三年生見学 |
| 3・9 | 小金北小学校三年生見学 |
| 3・11 | 館長講演(葛飾区郷土と天文の博物館) |
| 3・21・23 | 「川の活動展」展示 |
| 3・4 | 全体会議 |
| 3・5 | 成田市教育委員会来館 |
| 3・22 | 「新松戸の街路樹・公園」発刊(三、〇〇〇冊) |
| 4・1 | 理事会 |
| 4・24 | 全体会議 |
| 4・7 | ピオトープ調査 |
| 4・23 | 新松戸北小学校入学式館長出席 |
| 4・28 | 「朝日れすか」取材協力 |
| 4・28 | 幸谷小学校三年生見学 |

| | |
|---------|------------------------|
| 5・1 | 新松戸北小学校三年生見学 |
| 5・4 | ピオトープ調査 |
| 5・6 | 館報11号発刊 |
| 5・7 | 全体会議 |
| 5・9 | 新松戸西小学校三年生見学 |
| 5・21 | 坂川の源流(下流水質検査) |
| 5・22 | 馬橋北小学校三年生見学 |
| 5・26 | 「テレビ東京」取材協力 |
| 5・27 | 河川の自然復元に関するシンポジウム館長出席 |
| 5・27 | 理事会 |
| 5・28 | 上越大学院研究員来館 |
| 5・28 | 全体会議 |
| 5・28 | 横須賀小学校三年生見学 |
| 5・13 | 松戸市カプスカウト見学 |
| 5・17 | 研修(松戸市戸定歴史館) |
| 5・21 | 館長講演(雑学大学) |
| 5・25 | 新松戸北小学校二年生見学 |
| 5・25 | 全体会議 |
| 5・25 | 「館報」11号・「新松戸の街路樹・公園」発送 |
| 5・9 | 京葉ガス広報室取材協力 |
| 5・11 | 流水保全水路通水式館長出席 |
| 5・22・23 | 第15回夏休み子供歴史教室 |
| 5・26 | 全体会議 |
| 5・26 | 子供歴史教室再会日 |
| 5・30 | 松戸市青年会議所館内撮影 |
| 5・2 | 全体会議 |

| | |
|---------|-------------------------|
| 9・6・12 | コアラTV取材協力 |
| 9・9 | 新松戸北小学校四年生見学 |
| 9・13 | 館長実習指導(稲刈り) |
| 9・17・18 | 新松戸南中学校生見学 |
| 9・25 | 旭町中学校生見学 |
| 10・1 | 館長講演(新松戸北小学校) |
| 10・2 | 「松戸よみうり」取材協力 |
| 10・7 | 全体会議 |
| 10・10 | 館長講演「食文化」の実習 |
| 10・22 | 古ヶ崎南小学校四年生見学 |
| 10・22 | 館長講演(新松戸西小学校) |
| 10・2 | 全体会議 |
| 11・4 | 「地域と考える川づくり懇談会」館長出席 |
| 11・6 | 談話会 |
| 11・11 | 館長講演(新松戸北小学校) |
| 11・12 | 「松戸史跡めぐり」来館 |
| 11・13 | 新松戸南小学校四年生見学 |
| 11・14 | 沿線健康ハイキング来館 |
| 11・19 | 新坂川河川環境整備会議館長出席 |
| 11・25 | 馬橋北小学校四年生見学 |
| 12・1 | 清流ルネッサンス会議館長出席 |
| 12・5 | 国分川「川づくり」ワークショップ報告会館長出席 |
| 12・25 | 館長講演及び研修(五香ふれあいホール) |
| 12・26 | 仕事納め |

〈資料館利用のご案内〉

- ▽開館日 毎週水曜～日曜日
- ▽時間 10時～16時(ただし、入館は15時30分迄)
- ▽入館料 無料
- ▽所在地 松戸市新松戸3-27
- ▽電話 ☎344-1909
- ▽新松戸市民センター3階



編集後記

表紙の「目潰しの鴨」の写真は、松戸市役所の上野様が撮影してくださいました。

米は八十八回手がかかるといわれて、稲作が機械化されていない頃は、重労働でした。秋の収穫が豊作であった年はどの家も明るくなり、凶作の年は不安になりました。このように米の収穫に一家や村が左右されました。